
リアル

大和

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

リアル

【Nコード】

N4150I

【作者名】

大和

【あらすじ】

日々文字が横行するネットでの生活。

こんな俺でも恋がしたい。

はたして俺は幸せになることができるのだろうか。

序章

「三次元の恋人」 プロローグ

暗い部屋の中で明かりを点ける。一瞬眩しい光に目がくらんだが、少し目を瞑ればいつも通りの自分の部屋が広がる。時計を見れば午前三時を回っていた。こんな時間だ、まだまだ空は暗い。日本には幽霊がもつとも出やすいと言われる夜中の丑三つ時というものがある。子供の頃はとも怖かった。親に吹き込まれる話と、夜に観る怖いテレビ番組を観た後は尚更だ。そんな子供の頃のトラウマなど微塵もみせず、最寄り（もより）のコンビニへ行くべく、パソコンの電源を落とす。さつき点けたばかりの電気に多少悪いと思いつつ、またまたそんな事を微塵も思っわけもなく、電気を消して部屋を出る。

外の空気はひんやりしている。今まで部屋の温かい温度にさらされていた衣服も一瞬でひんやりと冷たくなる。取り出した鍵は最初からものすごく冷たかった。僕は足早にマンションの敷地から出ていく。大家さんには悪いが、このマンションの大きさはさほど大きくはない。ほどよい、ごく一般的なマンションといえる。壁は白い木地に、屋根の色は黒。やはり説明してもごく一般的なマンションだ。だが都心近くでこの広さなら十分というものだろう。

そんな事を考えている間に最寄りのコンビニに着いた。最寄り（もより）のコンビニというだけあって、二分僅か（わずか）で着いた。温かい空気と共に店員の素気ないあいさつが聞こえる。やはり夜中の店員というものはこんな感じなのだろうか。まあそんなことはどうでもいい、目的を手早くすませて帰ることにしよう。ここにきた目的は腹ごしらえのための食糧と飲み物を買いにきただけだ。

最寄りのコンビニだが店員の顔を伺っている場合ではない。お菓子とオレンジジュースを買ってお金を払って店を出る。

店を出ると冷たい風が吹いた。服を着ているのに、身に沁みるよ
うなどこか寂しい風だ。帰り道でふと空を見上げる。さほど気にも
留めていなかったが、雨は降ってはなくて、夜空には燦然と輝く星
空が広がっていた。夜空なんていつから見えてないだろう。こっちに
上京してきて二年がたつ、それ以来だろうか。大学に入学して念願
のパソコンを手に入れた俺だが、そこからどんだん家に引きこもる
時間が増えていった。ひきこもると言っても夜は外出することもあ
るし、昼もごくたまにだけ外に出ることもある。

何か物憂げになり、僕は星空を見上げる。僕にだって友達はある。
あまり多くはないけど、なんでも話し合える友達だ。何が不満かと
言われれば。そう、それは彼女いない歴〃年齢という事だな。いや
まさにそういうことだ。僕はまたまた星空を見上げる。あわよくば、
星空にもし神様が居るのなら、叶えてほしい。僕にも愛し合える彼
女がほしい。

と、こんなくだらない事を考えていても仕方がない。現実にはそ
んな事はないのだから、二次元ではアリだが。……つまりアニメや
漫画の中だけならある、ということだ。二次元だけでなら俺にも嫁
はたくさんいる。年下の女子高生や年上の艶やかな美人マネージャ
ー。考えるだけならタダときている、こんなおいしい話はない。つ
まり俺は世間一般で言う「オタク」と呼ばれる人種である。テ
レビで見るとようなあんな暑苦しいオタクではないが、一般人よりか
は何か違うオーラがあるに違いない。

そんな事を思っていたら自分の住んでいるアパートまで戻ってき
た。出て行った時と同じ手順で部屋に行く。降り時はさほど気に

も留めないが、上りの時のこの階段はとても辛い、急こう配という
ものだ。階段を上りきった俺はまた夜空を見上げる。冬の澄んだ星
空がそこにはあった。

序章（後書き）

初投稿作品でございます。

又ル又ルとまたーり投稿していきます^^

一部ノンフィクション

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4150i/>

リアル

2011年1月21日02時37分発行